

そよ風

豊 浦 小 学 校
校 長 室 だ よ り
2 0 2 1 年 9 月 1 5 日
第 7 号

□ 「言葉」について

2年生の担任が、「道徳の時間に子供たちが書いた感想の中に校長先生あてのものがありましたので持ってきました。」と届けてくれました。

その感想の一つには、次のようなことが書いてありました。

いつもわたしたちのあんぜんとかをまもってくれて、ありがとうございます。
いつかわたしたちが、おんがえしができるようにがんばります。あと、これからは、交通ルールをまもってあんぜんにすごします。

ありがとう
ございます

2年生が書いてくれた感想をととてもうれしく思い何度も読み返しました。
子供たちが書いてくれた感想のお陰でその日一日をととてもいい気分で過ごすことができました。

その日をととてもいい気分で過ごす中で感じたことがあります。それは、「ああ、言葉のもつ力はやっぱりすごいなあ。」ということです。

2年生の感想に書かれたあたたかい「言葉」によって私自身のもつ喜びの感情が大きくなったのですから、「言葉」のもつ力はすごいなあと改めて感じたということです。

人と人が関わる中で、「言葉」をとおして互いの考えや思いを相手に伝えています。関わる人を元気づけるのが「言葉」なら、悲しく落ち込んだ気持ちにさせるのも「言葉」です。

「言葉」を用いる人の使い方次第で、人に及ぼす影響が大きく異なってきます。それだけに私たちは、「言葉」がプラスにもマイナスにも成り得る力をもっていることを自覚して使う必要があります。

そして、子供たちにも「言葉」の正しい使い方のよさ、誤った使い方の危険性などについて教えていくことが求められています。

SNSがコミュニケーションの手段として盛んに用いられている現在、「言葉」を正しく使うことがより一層重要になっています。

本校では、チャレンジ目標の一つに「あったか言葉・あったか行動」を掲げ、思いやりのあるあたたかい言動を日々の教育活動の中で指導しています。

これからも根気強く子供たちへの指導を継続してまいります。

□ 豊浦小の歴史④～戦時下の教育～

豊浦小が来年度創立150周年を迎えるにあたり、豊浦小の歴史についてお伝えしています。今回は、戦時下の教育についてご紹介します。

昭和16年の国民学校令の実施により、校名が「下関市立豊浦国民学校」と改称されました。非常事態の中で、食料増産、応召兵の見送りなども教育の一環として行われたそうです。

そのような中で、児童数の急増から教師や親、児童までも学校増築に取り組んだということです。

大変な時代を乗り越えて今日の豊浦小学校があります。



国民学校時代の校門（昭和18年）

年			ことがら
昭和	12	1937	長府町が下関市に合併
	18	1943	プールを新設 児童数2242人
	19	1944	本館が落成
	20	1945	空襲にそなえて天井を外す
	21	1946	学校給食を開始
	22	1947	6.3制により「下関市立豊浦小学校」と改称
	25	1950	校内理髪を開始 子ども貯金を開始

昭和20年前後のことがら

□ 新型コロナウイルス感染症について

新型コロナウイルス感染防止に向けて、健康チェックカード等感染防止に向けた取組へのご協力をありがとうございます。子供たちだけではなく、ご家族の中に通常に比べて体調が悪い方がいらっしゃる場合は、登校を控えるなどのご配慮に対してお礼申し上げます。どうもありがとうございます。

ご家族の中に通常に比べて体調が悪い方がいらっしゃる中、児童が登校し、後に陽性が分かった場合、他の児童への影響が大きくなることが考えられます。

このような状況にありますので、引き続き、ご配慮をお願いします。

□ 心を育てるために

チャレンジ目標である「あったか言葉・あったか行動」に示す人に対する思いやりのある言動を育む時間の一つに「道徳科」の時間があります。今回から、道徳科における各学年の取組についてもご紹介していきます。



パラリンピックが終わりました。強い心と、周りへの感謝の言葉を忘れない選手の姿に、胸を打たれた2週間でした。

6年生は道徳の時間に、『技術で「障がい」をなくしたいー遠藤 謙一』という教材で学習しました。足を失った友のために義足作りを始めた遠藤さん。最初は「ロボット義足」を開発します。その後安くて質のよい誰でも買える義足の研究に、そして競技用の義足の研究にも取り組んでいきます。遠藤さんの目標は、「技術で障がいを、差別をなくすこと。」

遠藤さんの願いを考え、班で共有し、遠藤さんから学んだことをふり返りに書きました。

- ・遠藤さんは、この研究によって、全世界の足を失った人を救いたいという願いで研究をしていると思う。一度質のいい義足ができて、今度は安くて質の良い義足を作っていた。一度うまくいっても、まださらに上を目指すことを学んだ。
- ・遠藤さんは、この世界から「不自由」を消したい、障がいをコンプレックスにさせたくないという願いをもっている。世の中にはいろいろな「個性」をもつ人がいるから、互いに認め合い、明るい未来を見つけていきたいと思った。
- ・遠藤さんは、体に障がいをもっている人がどこへ行っても安心して過ごせるようになってほしいという願いをもっていると思います。遠藤さんから、だれも作っていない新しいものでも、研究を重ねれば世界でも通用して、人の役に立てるということを学びました。
- ・遠藤さんは、義足でみんな平等になれる世の中にしたいという思いをもっている。ないものからいろんな答えを見つけ出していた。私が今勉強していることが未来の役に、誰かの役に立つと思った。

まさに、豊浦小学校の合い言葉「あったか行動、あったか言葉」と通じる教材です。この言葉と、この学校で学んだことを胸に、社会で活躍して欲しいと願っています。

保護者の皆様に、各学年でどんな道徳の授業をしているか、子供たちがどんな考えをもっているかを知ってもらいたい、という願いからこのコーナーを始めました。次回は5年生の授業の様子をお伝えします。